

注目種目 Pick up

男子 走高跳

各地でインターハイ路線がスタート。
注目選手を紹介する本企画3回目は男子女子共に走高跳をピックアップ。
昨年のインターハイは男女共に2年生が制し、今年連覇が懸かっている。

文/石井安里
写真/椛本結城、上野弘明、佐藤真一、
菅原 淳、田中慎一郎、中野英聡



川崎俊祐
Shunsuke KAWASAKI
市尼崎高3年・兵庫
PB 2m12



福士 湊
Minato FUKUSHI
明星学園高3年・東京
PB 2m09



加古彩人
Ayato KAKO
中京大中京高3年・愛知
PB 2m07



佐藤卓巳
Takumi SATO
市前橋高3年・群馬
PB 2m10

川崎が5人目の連覇に挑む

昨夏の徳島インターハイを制した川崎俊祐(市尼崎高3年・兵庫)を中心に、熱戦が予想される。

川崎は昨季、近畿大会終了時の自己記録が2m01だったが、7月に2m08に伸ばすと、徳島では自己新の2m12をクリアして優勝。10月のU18大会でも、2m07で3位に入賞した。「昨年はいよいよ年になりました。練習を頑張ったこと、仲間と切磋琢磨できたこ

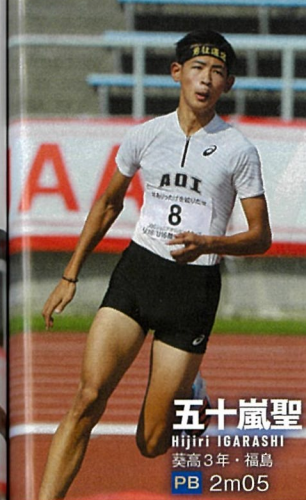
とで成長できました」と、飛躍の1年を振り返った。

今季は3月中旬に左の足首と太ももを痛めた影響で、スロー調整。4月は大会に出場しなかったが、夏に向けて調子を上げてくるだろう。「インターハイ2連覇と、2m20を跳ぶことが目標」と意気込む。達成すれば、1949年から3連覇の石川行男(富士宮実高、現・富士宮北高・静岡)、67年から2連覇の安德博(三潴高・福岡)、78年から3連覇の山本寿徳(美作高・岡山)、

93年から2連覇の小林俊一(八千代松陰高・千葉)に続き、史上5人目の連覇となる。

全国大会で最も安定した実績を残してきたのが、2020年全国中学大会王者の福士湊(明星学園高3年・東京)だ。昨季はインターハイで自己新の2m09を跳んで4位、10月には国体少年共通で4位、U18大会で5位に入賞した。今季もシーズン初戦に2m06と、好スタートを切った。

川崎と同様に、加古彩人(中京大中



五十嵐聖
Hijiri IGARASHI
葵高3年・福島
PB 2m05



新山創大
Sota NIIZAMA
関大北陽高3年・大阪
PB 2m04



小島碧波
Aoba KOJIMA
社高3年・兵庫
PB 2m03



石井喜人
Haruto ISHII
市尼崎高3年・兵庫
PB 2m05



清水情太郎
Jotaro SHIMIZU
武南高2年・埼玉
PB 2m08



中谷魁聖
Kaisei NAKATANI
福岡一高2年・福岡
PB 2m03



崔 宰原
Zewon CHE
北見北斗高2年・北海道
PB 2m00

京高3年・愛知)も徳島で飛躍を遂げた。東海大会終了時の自己記録は1m98だったが、7月に2m台に乗せ、インターハイで2m06を跳んで5位に入賞。U18大会では2m07と自己記録を更新し、1・2年生最上位の2位に入った。助走のテンポが定まったことを昨季の成長の要因に挙げ、この冬期にはスピードアップで助走をさらに強化した。

3~4月に出場した4戦はいずれも1m90台だったが、5月4日の愛知県名南支部予選では2m03と調子は上向き。苦手だという踏切を修正し、「インターハイ優勝、2m15以上」を目標に掲げている。

3年連続の2年生王者誕生も

国体で2m06を跳んで6位に入賞した佐藤卓巳(市前橋高3年・群馬)は、約2週間後の関東新人で自己記録の2m10をクリア。今季は4月の記録会で、2m00でシーズンインした。

昨年9月に自己記録の2m06を跳ん

だ工藤翼(山形学院高3年・山形)は、冬期に走り込みを増やし、スピードも持久力も磨いてきたという。4月の2戦は1m90台だったが、5月に入って2m01と徐々に上がってきた。「これから良い助走をつくって、全国制覇と2m16を目指します」と、北海道インターハイを見据えている。

U18大会で6位の五十嵐聖(葵高3年・福島)は、4月に2m05と自己記録を更新。2m04を持つ新山創大(関大北陽高3年・大阪)も、4月に2m03と順調だ。

U18大会で7位、徳島インターハイで決勝に進んで9位の小島碧波(社高3年)、昨年2m05を跳んだ石井喜人(市尼崎高3年)の兵庫コンビは、4月の兵庫リレカーニバル(一般高校の部)で2m01だったが、これからさらに上がってくるだろう。

そして、絶好調の清水情太郎(武南高2年・埼玉)に注目。一昨年の全日中とU16大会の覇者だが、昨季までの自己記録は1m98だった。今季は3月

の初戦で2m00をクリアすると、4月19日には埼玉県南部地区予選で2m08まで伸ばした。一昨年のチュクネレ・ジョエル優人(八千代松陰高、現・筑波大1年)、昨年の川崎と2年生王者が続いており、清水もその流れに乗れるか。同じ2年生では、U18大会7位の中谷魁聖(福岡一高・福岡)、U16大会優勝の崔宰原(北見北斗高・北海道)らも期待される。

男子走高跳 2022-23年度シーズンベスト20傑

順位	記録	選手名	所属	記録樹立日
1	2m12	川崎 俊祐	市尼崎高3年・兵庫	22.08.07
2	2m10	佐藤 卓巳	市前橋高3年・群馬	22.10.22
3	2m09	福士 湊	明星学園高3年・東京	22.08.07
4	2m08	清水情太郎	武南高2年・埼玉	23.04.19
5	2m07	加古 彩人	中京大中京高3年・愛知	22.10.22
6	2m06	工藤 翼	山形学院高3年・山形	22.09.09
7	2m05	石井 喜人	市尼崎高3年・兵庫	22.07.22
7	2m05	井上 翔太	一条高3年・奈良	22.11.06
7	2m05	五十嵐 聖	葵高3年・福島	23.04.23
10	2m04	新山 創大	関大北陽高3年・大阪	22.05.28
11	2m03	小島 碧波	社高3年・兵庫	22.08.07
11	2m03	中谷 魁聖	福岡一高2年・福岡	22.10.16
13	2m02	山下 優人	昌平高3年・埼玉	22.04.23
13	2m02	藤山 拓歩	諫早農高3年・長崎	22.05.21
13	2m02	周世原春秋	岡山南大附高3年・岡山	22.10.23
13	2m02	網谷 建吾	南陵高3年・埼玉	23.04.19
13	2m02	深川 直人	鷲宮高3年・埼玉	23.04.22
18	2m01	松澤 雄大	三浦学園高3年・神奈川	22.09.23
18	2m01	中本 飛羽	市尼崎高2年・兵庫	22.10.29
18	2m01	黒田琥央佑	四条畷高3年・大阪	22.10.30

*学年は今年度のもの